



りそな銀行アジアニュース

2016年7月4日
りそな銀行 国際事業部

【バンコック駐在員事務所】

「タイへ及ぼす英国の欧州連合離脱の影響について」

2016年6月23日に実施された英国の国民投票で、英国が欧州連合(EU)から離脱することが決まりました。これを受け、世界経済の先行き不透明感が広がっています。英国国民投票の翌24日、金融市場の動揺をはじめ、リスク回避のために英通貨ポンドやユーロから基軸通貨へ資金を移す動きを強めた結果、ユーロは一日で米ドルに対して約3%下落しました。英ポンドは1985年以来の最も低い水準まで下がり8%下がりました。対英ポンドのタイバーツ相場も前日比5.9%高の1英ポンド=49.01バーツで、1年2カ月ぶりの高水準となりました。一方、対円で2.4%安の100円=34.44バーツ、対米ドルで0.5%安の1米ドル=35.37バーツとなりました。タイ株式市場もパニック的な株安を受け、タイ証券取引所(SET)指数終値は1,413.19ポイントとなり、前日比1.62%急落しました。また、安全資産である金の国際価格が上昇し、タイ国内の金相場も高騰し、24日のうちに31回の変動の末、現地市場の金価格はオンス当たり1,280米ドルから1,320米ドルまで伸びました。

さて、タイの財務省、エコノミストらから、英国の欧州連合(EU)離脱がタイ経済に与える影響は軽微にとどまるとのコメントが出されました。また、中央銀行が分析をしていることは以下の通りです。

事項	分析した内容
貿易	<ul style="list-style-type: none"> ・タイの英国向け輸出は2015年の実績で、全体の1.8%に過ぎないから、タイの貿易に与える直接的な影響は限定的であるとみられています。但し、EU が被く影響を考えると、タイの対EU 貿易全体に影響が出ることは避けられません。英国を除くEU 向け輸出額は全体の約8.4%を占めているから、EU 域内で離脱の動きが他の加盟国に広がらなく、EU が結束を保てる場合には影響はさほど大きくはならないとの予測。 ・EU との取引がある民間企業部門が被る影響については密接に追跡する必要があるとの見方を示しました。
金融機関システム	<ul style="list-style-type: none"> ・タイの金融機関が持つ資産の1.31%を占めるに過ぎません。また、タイ商業銀行が英国のEU 離脱に備えて十分な対策と外為ポジションにおけるリスクヘッジを行ってきたとしていることに加えて、タイの金融システムに対する影響は限定的との見込み。
外国為替市場・資本市場	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の外為市場や資本市場の動揺を受け、投資マネーの警戒感は強まり、資産価格やキャピタルフローは一時的に振幅が大きくなる見込み。資本市場も短期的に動揺するとの見方を示しました。 ・マネーマーケットは動揺が続く可能性が高いため、民間企業には為替リスクのヘッジを推奨しています。

ただし、当面のところは大きな影響はないとみっていますが、今後の世界経済の回復状況に影響を及ぼすとして警戒を強めています。

【出所:中央銀行 HP、地元新聞記事より】

照会先: 国際事業部(東京) 電話 03-6704-2723
(大阪) 電話 06-6268-6357

当資料は、信頼できると思われる情報に基づいて作成しておりますが、弊行がその正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前の連絡なしに変更されることもあります。当資料は情報提供のみを目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、お客様御自身でご判断下さいますようお願い致します。

* 禁無断転載